

無くしていくべきもの

内灘町立内灘中学校 三年

中平恋姫

「あなたには無理だと思う」この言葉がど
れだけの人の未来を失わせたかわかるだろう
か。人はみんな多少の偏見をもつことがある
だろう。しかし、私はこのような偏見をなく
していくべきだと考える。

例えば、ニュースである人が犯罪を犯し、
捕まったと報道されたとき、人はどう思うか
「あれだけの罪を犯したんだ。あいつの人生
は終わりだ。もう更生することはないだろう
そう思う人が多いのではないか。本当にそう
なのだろうか。私は大きな罪を犯した人でも
しつかりと自分と向き合い罪を償って、将来、
一人の人間として生きていけると思う。私た
ちが誤った偏見をもつことで、まだまだ未来
ある人達を見放しているのではないだろうか
また、私がもたれた小さな偏見もある。私
は中学一年生のとき、自分のやるべきことが

分からず自暴自棄になり、部活動も勉強も学
校も全てのことを投げ出ししていた。学校へ行
かなければと思えば思うほど苦しくなり、家
から一步も出ることができなかつた。とても
辛かった。そんな私に先輩や友だち、先生方
などたくさんさんの人の支えがあつて「もう一度
最初からやり直して、他の人たちに追いつく
追い抜かす」と思うことができた。でも、そ
の思いを崩そうとしたのが偏見だ。私にはそ
の頃目標にしている友だちがいて、いつか絶
対にその友だちを超したい思っていた。ある
時何気なく「あなたを超えたい」と言ったと
きに、友だちが「無理やろ」と言った。もち
ろんその子に悪気はなかつたと思う。そう思
われても仕方ないからだ。私が家に閉じこも
っていた間も友だちは成長し続けていたし、
追いかけても追いかけても追い抜くのはとて
も難しかった。無理だと思ふのも当然だ。友
だちの偏見に抗うためにも私は必死で頑張つ
た。私にできる全てのことを全力で頑張った

今では目標の友だちに追いつけたつもりだ。
肩を並べて張り合っていると自負している。
私の友だちの偏見を覆したのだ。
もちろん罪を犯した人や、投げ出した私に
関しては自業自得で、見放して当然と思う人
もいるだろう。それでももがきながらも立ち
直ろうとしている人に、偏見をもって諦めさ
せるのはよくない。逆に応援するべきなので
はないだろうか。その応援がその人の励みに
なって前進する勇氣になる。
さらに、誰かに偏見をもつことでストレス
を発散する人や安心感を得る人もいるだろう
確かに自分はいいい気分かもしれないが、偏見
を持たれる側は傷つくし、持つ人も後から罪
悪感が出てくるはずだ。偏見をもつ人にもも
たれる人にもメリットはない。
以上のことから、偏見というものをなくし
ていくべきだ。人間は誰もが皆、心の中で必
ず誤った見方、偏った考え方をしてしまうも
のだ。しかし、それを十分理解したうえで、

見方を変えて、一人ひとりがお互いを認めあ
つていくことができれば、偏見のない穏やか
な世界をつくっていけると私は考えている。